

◆今期間のポイント

＜主要じょう乱の概要＞

- 11日は、日本の東海上へ高気圧が進む。
- 12日は、日本海西部に低気圧が発生し、前線が東シナ海へのびる。
- 13日は、低気圧が東北地方付近へ進み、前線が東日本から日本の南へのびる。
- 14日は、低気圧がオホーツク海へ進み、前線は日本の東海上から日本の南へのびる。一方、高気圧が九州の西へ進む。
- 15日は、日本のはるか東の高気圧が本州付近に張り出す。

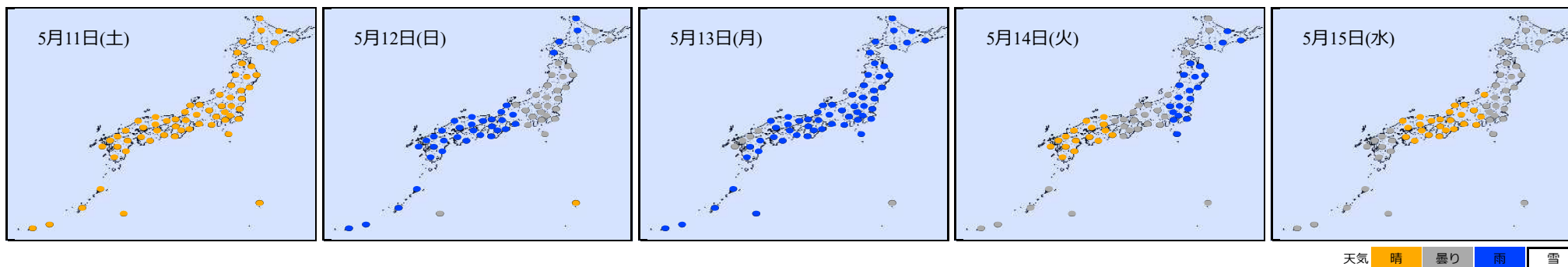
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

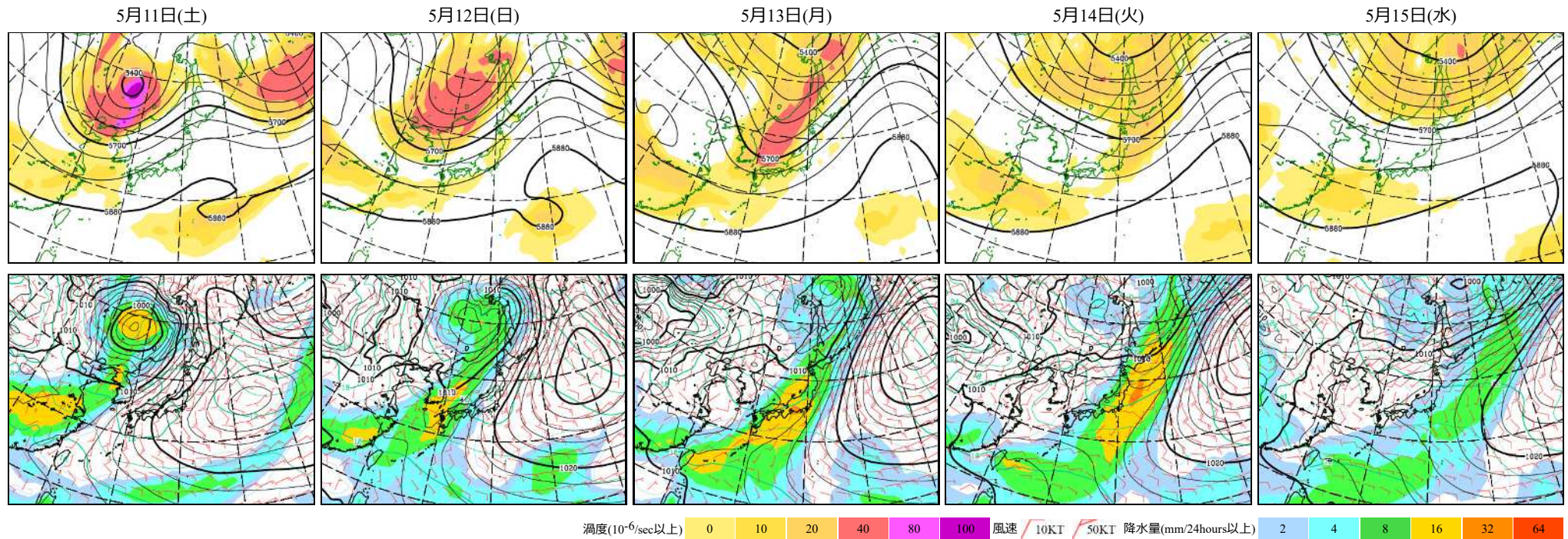
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

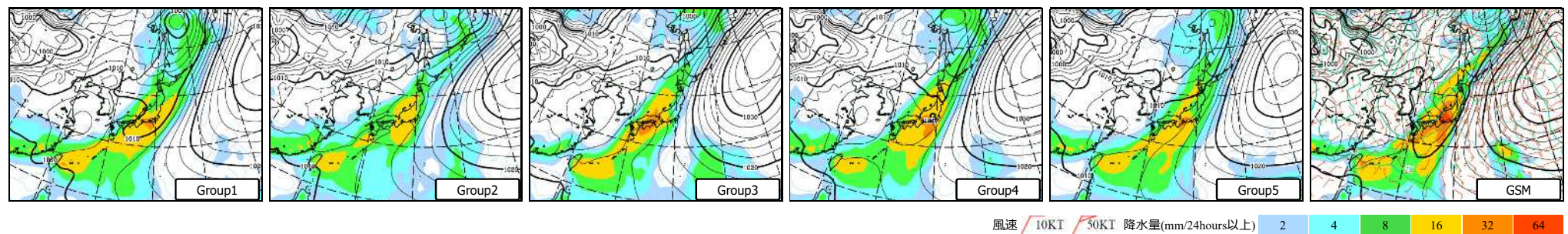


- 北日本と東日本では、11日はおおむね晴れますが、その他の日は曇りや雨の日が多い。
- 西日本では、12日から13日にかけて雨が降りますが、その他の日は晴れや曇りとなる。
- 沖縄・奄美では、11日はおおむね晴れますが、その後は曇りや雨の日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆5月13日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- スプレッドは、期間の終わり頃に大きくなっている。
- 13日頃までは各モデルとの差は比較的小さいが、13日頃に本州付近を進む気圧の谷や低気圧の表現にばらつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。